

株式会社アイエムエス

～技術を磨き、永続する「強い」会社～

多摩大学 経営情報学部

片沼 来夢（2年） 宮崎 祥乃（2年）

東京都八王子市で着磁・磁気計測技術の開発や製造を行う株式会社アイエムエスに訪問し、代表取締役社長の吉野隆之氏にお話を伺った。



株式会社アイエムエス 代表取締役社長 吉野隆之氏

会社情報

株式会社アイエムエスは、1990年、東京都八王子市に会社を設立。創業以来、着磁のスペシャリストとして磁気応用製品の先端技術開発、高度な技術の成長を支え続けている。開発から設計、製造、ソフトウェア製作までの全てを担い、一貫生産だからこそできる柔軟な対応が、安心と信頼感の獲得に繋がっている。最新の技術による

製品の提供にとどまらず、性能を落とさずにコストを削減することにも挑戦し続け、着磁のアドバイザー業務にも注力している。

2011年には磁界測定調整装置、2013年には磁界測定装置、2016年には磁気センサーの位置決め装置の特許をそれぞれ取得。2021年、第19回多摩ブルー・グリーン賞において、「3次元磁界ベクトル分析測定装置 MTX(マグネットアナライザー MTX-6R)」が多摩ブルー賞優秀賞を受賞。

一貫生産だからこそできる柔軟な対応

株式会社アイエムエスの創業者は、現社長の父である吉野裕氏だ。吉野裕氏は着磁設備を製造している企業に勤めていたが、独立してこの会社を立ち上げた。



同社の特徴として、着磁の技術に特化している点が挙げられる。

着磁とは、磁気を発生させたい物に外部から強い磁気を植え付ける作業のことを指す。私たちが一般的に手にするマグネットは、最初は磁力を持っていないが、着磁の作業を経て初めて使用することができるようになるそうだ。マグネットは、携帯電話やパソコン、エアコンなど、機械的に動くもののほとんど全てに用いられており、私たちの生活に欠かせないものとなっている。

吉野社長には、一貫生産に強いこだわりがある。それは、「最初から最後まで製品を作り上げる面白さ」と、「スピード感」を重要視していることだ。ひとつの製品が出来上がるまでの全ての工程に携わらないとつまらない。途中の工程を他社に委託してしまうと、ものづくりの面白さが減るだけではなく、もしトラブルが発生した時に

自社だけでは解決することが難しくなってしまう。このトラブルの解決に繋がるのがスピード感だ。販売した製品が万が一壊れてしまったとき、販売先の生産ラインを一時的に止めてしまうことになる。仮に、製造途中の工程を他社に委託していた場合、製品を直すためには、その企業に依頼することになり時間を要する。さらにその企業が自社と同じ熱量を持って販売先のお客さまに対応できるかどうかと考えると、恐らくそれは難しいであろう。だから一貫生産に強いこだわりを抱くようになったと吉野社長は語る。

多摩ブルー賞優秀賞を受賞したマグネットアナライザーMTX-6Rは、既存の製品では困難であった正確な磁気測定を可能にしたものである。それまでは、100 μ にも満たない小さなセンサーを人間が目視で合わせる他なかったため、測定する人によって値が異なっていたのだ。開発のきっかけは、某自動車メーカーからの要望であった。一貫生産だからこそできる柔軟な対応が、この技術や製品の開発に繋がったのではないだろうか。吉野社長は、お客さまからの要望について最初から諦めるようなことは基本的にはしないと話す。開発のために必要な時間や費用を相談しながら検討し、判断するそうだ。さながら、お客様との共同研究を行う研究機関のような企業である。

「理想の会社」とは

吉野社長の考える「理想の会社」とはどのようなものだろうか。

同社は、誠実で好奇心が旺盛な人材を募集している。吉野社長が求める人材像としては、「何か好き



なものがある人、趣味がある人」を挙げている。上記の特性を持っている人は仕事を始めた際に、仕事内容に興味を持ってもらいやすく「成長していくのが目に見えてわ

かる」と話す。知識を完全に持って入社してくる人はいないので、「日々の積み上げと成長」を重視し、社員の教育を行っている。



事業を継承した際、今後
も事業を継承させていき、
強い会社にするのを一番
の目標にしたと吉野社長は
語る。会社を大きくするこ
とを一番の目標にするので
はなく、会社を永続させ、
新しい代表者に継承させて
いくことに重きを置いてい

る。不況やコロナウイルスのような、コントロールできない社会情勢においても生き抜かなければいけないため、「最低限の人数で、最高の利益を挙げる」ことで強い会社になることができる。だが、人数が少なすぎると万が一の際、会社が回らなくなってしまう。これを防ぐために、各工程の協力と最適な人員配置を行っているそうだ。

理想の会社は、「みんながやりたいことを叶えられる会社」。社員の夢や希望に沿った組織にしていくために、会社の方針を考えることは吉野社長自身の仕事のやりがいにもつながっていくと話す。

取材を通して



取材を通して、「社長は社員の方々に何をしてあげられるかを考えなければならぬ」という吉野社長の言葉が印象に残っている。社長が指示を出し、社員が実際の仕事を行っているイメージが私にはある。そんな私にとって吉野社長の考え方は非常に惹かれるものがあった。今後私が起業することがあれば、社員の方々のことを考え、「強い会社」を目指したいと思った。

さらに、「どんな経験でも無駄になることはない」という考え方に大きな衝撃を受けた。吉野社長は大学を中退して北海道で酪農に携わっていた期間があり、そのため、北海道の企業との話しが進みやすくなることに繋がったそうだ。私は今まで様々なことに挑戦してきたが、どれも私のキャリアを考えるうえで直接的に関係するものばかりであった。しかし、それだけではなく、幅広く多様な経験を積むことが大切だと思った。また、「良い会社」とは、社長と社員とでスムーズにコミュニケーションが取れる環境が整った会社なのではないか。過度な上下関係を設けないことが、社員の発案に繋がると考える。株式会社アイエムエスは、社長と社員との距離が近いからこそ、社員のやりたいことを叶えられる企業なのだろう。